

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2191700018		
法人名	有限会社 あいケア		
事業所名	グループホーム恵那苑 A館		
所在地	岐阜県恵那市大井町丸池2714番地549		
自己評価作成日	平成29年10月13日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2191700018-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2191700018-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年11月 8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変静かな新興住宅地の一角にあります。</li> <li>・雄大な山々が一望でき、時間があれば利用者と散歩に出掛けます。</li> <li>・畑や空地(庭)があり、畑仕事や草むしりをした後のんびり季節感を感じながら、屋外でお茶を飲んだりしています。</li> <li>・出来る限りご本人のペースに合わせて、その人らしい生活が出来るように支援しています。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>山々が一望できる環境にあり、夏には地元の花火大会が見物でき、地域に駐車場を開放して交流している。運営推進会議で地域からの要望があり、ホームの敷地に大きな時計を設置して信頼も得た。利用者や職員との信頼関係が強く、仲良く日々生活している。職員の言葉遣いひとつで、安心・安全で心の平安が生まれる事を理解している。経営者、管理者、職員、利用者の距離が近く、言いたいことが言える環境でもある。経営者や職員が一体となって、目標とする充実した支援の実践に努めており、利用者にとって穏やかに暮らすことが出来るホームである。</p> <p>開設以来、ホームは“利用者本位の支援”を実践するために地域との関わりを深めており、今後さらに地域と密接な関係を構築し、地域に愛されるアットホームなグループホームを目指している。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム玄関等に掲げ、いつでも確認できるようにしています、更にミーティングでどの様に実践に繋げていくかを話し合っています。	ホームの理念を玄関や共用空間に掲示し、どんな時でも見直せるようにして理念の共有を図っている。大きく掲げられている「笑顔でいられるように」を胸に、職員は支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防訓練、交流会等の開催時には声掛けしてもらい、できる限り地域と交流できるよう心掛けています。	自治会の行事に参加し、今後認知症カフェを開催する時には地域の人にも参加して欲しいと考え、企画を進めている。新興住宅地の中にあり、ホームの周りには小さい子どもが沢山遊んでいる。	回覧板等を活用し、自治会にホームの行事や認知症カフェ等への参加を積極的に呼びかける事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を使い地域の方々へ向けて情報発信をし認知症について理解して頂けるよう努力しています。恵那苑での行事等の参加を呼び掛けたり、散歩に出かけた時にはあいさつを心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を年に6回程度開催しています。会議の報告はミーティングで話し合いをして以後の業務に活かしています。	家族の参加は少ないが、市や知見者、民生委員、自治会、防災訓練の時期には消防署も参加している。利用者の状況や意見交換、ホームとしての自治会への関わり方等、中身の濃い会議を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市(福祉課・包括支援センター)や社協からの研修・会議等に参加。運営推進会議のも市から参加をして頂いています。介護支援相談員の訪問・行政との互いの協力がホームの質の向上に役立っています。	現在、生活保護受給者の受け入れの申請を行っている。県主催の研修会、勉強会に参加をし、支援の向上に努めている。研修に参加をしているが、内容が職員全体に伝わっていない懸念がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全員周知しており、マニュアルを作成したり、ミーティングで取り上げ、知識の向上と理解に役立てるよう取り組んでいます。	玄関や窓の施錠は夜間のみである。外の空気が吸いたい時には、広々としたバルコニーへ何時でも出ることが出来る。家族に説明を行い、如何に安全管理の下、自由に過ごしてもらえるかを考えている。身体拘束について研修会に参加している。	研修内容が職員全体に共有できるよう、研修受講者を講師にして、ホーム内でパート職員を含めた全職員の研修機会を持つことが望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加し、参加者から話を聞いたり、マニュアル等も参考にしながら話し合いをし防止に努めています。常に身体観察に気を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中津川市に成年後見人センターが立ち上がりましたので、必要に応じ今後活用していこうと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、代表者と管理者または職員が立ち会いの下、家族と丁寧に話をさせていただいています。例を挙げ質疑応答で双方納得した上で契約を結んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人の意見を聞いたり、家族や外部の相談員(ケースワーカー・ケアマネ・専門医)等に相談して運営に反映させています。	家族との関係は良好であり、面会時や電話のやりとりの中でコミュニケーションが取れている。電話をかけると直ぐに駆け付けてくれる家族もいる。家族の思いや意向を日常的に聞き取る努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時等、代表者が管理者、職員から個別に話を聞く機会を設けるようにし積極的に意見交換をしています。	ケアカンファレンスを担当者ごとに行い、定期的に職員会議を実施している。会議以外でも、管理者は随時職員の思いを聞き取っている。日頃から職員との意見交換が頻繁に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者に話をこまめに聞き、労務士と話し合いをしながら出来る限りの努力を心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市での研修には参加できやすいようにしています。近隣開催の場合は案内を貼ったり、声をかけて参加を促すよう心掛け、研修後、報告する機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換等を行っています。他のグループホームとの交流の場がもっと多くあれば良いと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族、ご本人と面談し、出来るだけ色々な情報を聞き出すようにしています。担当のケアマネや職員にも相談、笑顔で対応し安心できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族に来苑して頂き、話を聞いて家族・本人が一番良い方法を一緒に考え、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ミーティングで事前の情報を職員で話し合いをし、まずは施設の生活に慣れて頂けるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を各利用者のペースに合わせて双方で協力し合いながら生活の支援をしています。女性の利用者には洗濯物を干したり畳んだりしていただきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時には本人と家族のみでお話ができる様に支援し、後に日頃の様子をお伝えし、家族から何か困っている事はないか等お話を聞き、何でも話し合える関係を築く様、努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙等の支援をしています。友達等が来苑した時に色々な情報を集めたりし、気兼ねなく再度来苑して頂けるような声掛けもしています。	家族のホーム訪問も多く、こまめに連絡を入れることで関係が途切れない様に配慮をしている。友人が訪れる利用者もいて、認知症の事を裏表なく話している。誰もが訪問しやすい環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の状態を把握し、関わりやすい話題やきっかけを作ったり、利用者同士が共に楽しく生活を送れるような関係作りを支援し、その日その時間が楽しくなるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所を控えた家族に「お困りの事がありましたら」と退所後の利用者及び家族の相談等、声掛けをしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で利用者から要望を聞き出し、管理者・ケアマネ・職員・場合によっては家族等と話し合いをし、希望に添えるよう誠意をもって対応するよう努めています。	就寝前に利用者やゆっくり話をしたり、入浴やトイレの介助の時等にも意向を引き出せるように、落ち着いて寄り添える時間を作っている。表情やしぐさからも、利用者の意向を察する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談にて、ご家族・ケアマネから生い立ちや生活歴を聞き、ケアプランに活かし、今までの暮らしに近い状態で過ごせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方・様子は生活記録・申送ノートに残し把握するよう努めています。ケアマネ・担当医からの情報も職員に把握してもらい日々の支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の特徴を把握し、ご本人からも話を聞き、要望があればご家族との話し合いの機会を作った後に、ケアプランを作成しています。	介護計画の見直しを3ヶ月に1度行っている。日々の利用者の様子や意向を申し送りノートに記録し、それを参考にして家族と相談し、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・申送りノート等、記録を資料としケアプランに盛込んでいます。ミーティングでも利用者一人一人について情報を共有し、介護計画の見直しについて話し合いをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に合わせて、柔軟に対応をしています。(外出・外泊等)家族から要望があれば、できるだけ事は相談に応じ行う様しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の心身状態を把握しながら、地域のイベントなどに参加し一緒に楽しく過ごして頂けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族に同意・納得をして頂き、受診をしています。時には個々の症状に合わせた病院に通っています。家族が病院に付き添われることもあるので、帰院時に詳細を聞き対応しています。	協力医は設定しているが、往診対応がないため、ホームや家族協力の下に、月1回の受診に通院している。毎週1回、訪問看護師が訪れ、利用者の健康状態を管理し、協力医と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師に来てもらい相談・援助をし病院受診の判断や定期受診時の相談等に反映させています。急変時には連絡し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者に合った対応が出来るよう連携に努めています。退院後はサマリー等を参考にその後のケアに活かせるよう心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には家族・看護師・相談員・ケアマネ・ケースワーカー等と相談して受入れ先等の相談をしています。場合によっては医師や家族と相談し、ターミナルも視野に入れ話し合いをしている。	看取りは行う予定であるが、協力医の往診が不可能なため、実施は難しい状況である。家族にも連絡して話し合いを行い、急変時や医療行為が必要になった時には病院へ転院してもらうこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習会を実施したり、緊急時のマニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。ミーティングでも都度確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1度の消防職員訪問による訓練と他に1度の自主訓練、合計年2回行っています。地域の方と協力し対応出来るよう自治会との連携をとっています。	消防署や自治会の参加があり、年2回の避難訓練を行っている。自治会の提案で、ホームに緊急事態が起こった時には、近隣に知らせるために外部にも聞こえる非常用のベルを設置した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しながら穏やかに過ごして頂けるようコミュニケーションをとり、個人に合わせた言葉かけをしています。	利用者に対する言葉遣いに気を配り、職員を家族と思っている利用者には、気さくに自分の親に話しかける様に使い分けている。利用者の心境を察知し、距離を取ったり寄り添ったりして支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の会話の中から希望や思いを聞き、色々な場面で自己決定出来るような状況を作り、ご本人の思いをくみ取り声掛け・見守り等させて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活習慣の流れの中で一人一人の体調やペースを尊重し穏やかに過ごして頂けるよう心掛け支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は定期的に美容師に訪問してもらいます。髪を梳いたり、髭剃りなどは支援しています。入浴時の着替えは会話をしながら利用者に選んでもらうように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立はなるべく利用者と相談してメニューを心掛けています。季節感を大切に一緒に食事を後片付け、テーブル拭きは声をかけ、出来る方に行って頂いています。	買い物に行く前日には、「何を食べたいか」等のリクエストを聞いている。嗜好を把握し、代替えメニューや味や形を変え、食事を楽しむ工夫がある。利用者は気分に合わせて、後片付け等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く献立し、量や形態については個々に対応する事で栄養の確保に努めています。水分補給は食事・お茶の時間、それ以外の時間でもスポーツドリンクなどを用いて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、洗える方は自身で頂き必要に応じて介助していますが、後に洗い直しをします。週に1度は義歯を預かり洗浄剤を使用しています。場合によっては歯科医に受診をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握(誘導チェック表を活用)しており、時間をみながら早めに誘導しています。個々に合ったパットを使用し、なるべく下着の生活に戻れる方向で支援しています。	排泄自立している利用者がほとんどで、見守りを中心に支援している。排泄チェックシートを活用し、適切な時間に声掛けを行っている。夜間はパッド交換で、快適に過ごしてもらえる様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、食事メニューを工夫し、自然に排便が出来る様、繊維の多い食材を心掛け調理し、それでも出ない場合は薬等主治医・看護婦に相談し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の日安の曜日は決めています、個々の体調や要望に合わせて介助し、ゆったりと湯船に浸かって頂く時間を大切にしています。	週2回、利用者の体調に合わせて入浴支援を行っている。季節の感じられる菖蒲湯やゆず湯等で利用者に喜んでもらっている。入れない利用者には足湯等も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが乱れない様に注意し、日中でも休んでもらうようにしています。休息、入床、起床時間は利用者の希望を尊重し、支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・容量を理解し、間違えない様、翌日1日の分を夜勤者がセットし、薬の内容を確認、薬の変更や追加の場合は受診記録に記載し申し送りをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かした家事・レクの役割をお願いし、百人一首・体操・畑仕事・散歩・パズル等、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候と体調に配慮しながら散歩等していません。馴染みの方・家族・親戚の方が来苑されます。外食等出来るよう支援できたらと思います。	日常的に外気浴を行うことが出来、敷地内の畑仕事も利用者が行っている。ホーム行事として花見や買い物に出かけ、帰宅願望の強い利用者は家族と喫茶店に行ったり、外泊をしたりして心静かにホームに帰ってくる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身、欲しい物がないようで、買い物に出掛ける機会が少なくなりましたが、欲しい物がある時には一緒に買い物に出掛けることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の部屋で、電話で家族と話ができるようにしています。手紙は難しいので年賀状・暑中見舞い等を塗り絵にし、家族等に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の空調・湿度・温度管理には湿度計等を置いて管理をし、快適に過ごして頂けるよう心掛けています。散歩で摘んだ草花など季節の飾ることもあります。	ホーム全体に防災の壁紙を貼っているため、華美な装飾は控えている。暖か味のある家具・調度を配置し、テレビが見やすい配慮がある。向かい合って座れるソファや冬季にはこたつを出したりして、居室に籠ってしまわないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいる方や、畳のスペースでテレビを観ていたり、お部屋で休んだり、利用者それぞれに自分の居場所を作って過ごしてもらっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時や来苑時にご家族に持って来てもらえるように声掛けをしている。以前の自室に近い状態を作れるように心掛けている。但し、消防署からの注意点もあり置けるものや貼るものは、難しい点もある。	家族が季節の変わり目ごとに衣服等の交換に来ており、馴染みの物を持ち込んでいる利用者は少ない。居室からベランダに出られるようになっているので、実際より広く感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、畑仕事、数字計算、体操など、一人で出来ることは職員が見守り、清潔で安全な生活空間になるよう、工夫し確保しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700018		
法人名	有限会社 あいケア		
事業所名	グループホーム恵那苑 B館		
所在地	岐阜県恵那市大井町丸池2714番地549		
自己評価作成日	平成29年10月13日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191700018-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191700018-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年11月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変静かな新興住宅地の一角にあります。</li> <li>・雄大な山々が一望でき、時間があれば利用者と散歩に出掛けます。</li> <li>・畑や空地(庭)があり、畑仕事や草むしりをした後のんびり季節感を感じながら、屋外でお茶を飲んだりしています。</li> <li>・出来る限りご本人のペースに合わせて、その人らしい生活が出来るように支援しています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム玄関等に掲げ、いつでも確認できるようになっています、更にミーティングでどの様に実践に繋げていくかを話し合っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防訓練、交流会等の開催時には声掛けしてもらい、できる限り地域と交流できるよう心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を使い地域の方々へ向けて情報発信をし認知症について理解して頂けるよう努力しています。恵那苑での行事等の参加を呼び掛けたり、散歩に出掛けた時にはあいさつを心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を年に6回程度開催しています。会議の報告はミーティングで話し合いをして以後の業務に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市(福祉課・包括支援センター)や社協からの研修・会議等に参加。運営推進会議のも市から参加をして頂いています。介護支援相談員の訪問・行政との互いの協力がホームの質の向上に役立っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全員周知しており、マニュアルを作成したり、ミーティングで取り上げ、知識の向上と理解に役立てるよう取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加し、参加者から話を聞いたり、マニュアル等も参考にしながら話し合いをし防止に努めています。常に身体観察に気を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中津川市に成年後見人センターが立ち上がりましたので、必要に応じ今後活用していこうと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、代表者と管理者または職員が立ち会いの下、家族と丁寧に話をさせていただいています。例を挙げ質疑応答で双方納得した上で契約を結んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人の意見を聞いたり、家族や外部の相談員(ケースワーカー・ケアマネ・専門医)等に相談して運営に反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時等、代表者が管理者、職員から個別に話を聞く機会を設けるようにし積極的に意見交換をしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者に話をこまめに聞き、労務士と話し合いをしながら出来る限りの努力を心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市での研修には参加できやすいようにしています。近隣開催の場合は案内を貼ったり、声をかけて参加を促すよう心掛け、研修後、報告する機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換等をしています。他のグループホームとの交流の場がもっと多くあれば良いと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族、ご本人と面談し、出来るだけ色々な情報を聞き出すようにしています。担当のケアマネや職員にも相談、笑顔で対応し安心できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族に来苑して頂き、話を聞いて家族・本人が一番良い方法を一緒に考え、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ミーティングで事前の情報を職員で話し合いをし、まずは施設の生活に慣れて頂けるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を各利用者のペースに合わせ双方で協力し合いながら生活の支援をしています。女性の利用者には洗濯物を干したり畳んだりしていただきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時には本人と家族のみでお話ができる様に支援し、後に日頃の様子をお伝えし、家族から何か困っている事はないか等お話を聞き、何でも話し合える関係を築く様、努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙等の支援をしています。友達等が来苑した時に色々な情報を集めたりし、気兼ねなく再度来苑して頂けるような声掛けもしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の状態を把握し、関わりやすい話題やきっかけを作ったり、利用者同士が共に楽しく生活を送れるような関係作りを支援し、その日その時間が楽しくなるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所を控えた家族に「お困りの事がありましたら」と退所後の利用者及び家族の相談等、声掛けをしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で利用者から要望を聞き出し、管理者・ケアマネ・職員・場合によっては家族等と話し合いをし、希望に添えるよう誠意をもって対応するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談にて、ご家族・ケアマネから生い立ちや生活歴を聞き、ケアプランに活かし、今までの暮らしに近い状態で過ごせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方・様子は生活記録・申送ノートに残し把握するよう努めています。ケアマネ・担当医からの情報も職員に把握してもらい日々の支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の特徴を把握し、ご本人からも話を聞き、要望があればご家族との話し合いの機会を作った後に、ケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・申送りノート等、記録を資料としケアプランに盛り込んでいます。ミーティングでも利用者一人一人について情報を共有し、介護計画の見直しについて話し合いをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に合わせ、柔軟に対応をしています。(外出・外泊等)家族から要望があれば、できるだけ事は相談に応じ行う様しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の心身状態を把握しながら、地域のイベントなどに参加し一緒に楽しく過ごして頂けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族に同意・納得をして頂き、受診をしています。時には個々の症状に合わせた病院に通っています。家族が病院に付き添われることもあるので、帰苑時に詳細を聞き対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師に来てもらい相談・援助をし病院受診の判断や定期受診時の相談等に反映させています。急変時には連絡し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者に合った対応が出来るよう連携に努めています。退院後はサマリー等を参考にその後のケアに活かせるよう心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には家族・看護師・相談員・ケアマネ・ケースワーカー等と相談して受入れ先等の相談をしています。場合によっては医師や家族と相談し、ターミナルも視野に入れ話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習会を実施したり、緊急時のマニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。ミーティングでも都度確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1度の消防職員訪問による訓練と他に1度の自主訓練、合計年2回行っています。地域の方と協力し対応出来るよう自治会との連携をとっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しながら穏やかに過ごして頂けるようコミュニケーションをとり、個人に合わせた言葉かけをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の会話の中から希望や思いを聞き、色々な場面で自己決定出来るような状況を作り、ご本人の思いをくみ取り声掛け・見守り等させて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活習慣の流れの中で一人一人の体調やペースを尊重し穏やかに過ごして頂けるよう心掛け支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は定期的に美容師に訪問してもらいます。髪を梳いたり、髭剃りなどは支援しています。入浴時の着替えは会話をしながら利用者に選んでもらうように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立はなるべく利用者と相談してメニューを心掛けています。季節感を大切に一緒に食事を後片付け、テーブル拭きは声をかけ、出来る方に行って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く献立し、量や形態については個々に対応する事で栄養の確保に努めています。水分補給は食事・お茶の時間、それ以外の時間でもスポーツドリンクなどを用いて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、洗える方は自身で頂き必要に応じて介助していますが、後に洗い直しをします。週に1度は義歯を預かり洗浄剤を使用しています。場合によっては歯科医に受診をしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握(誘導チェック表を活用)しており、時間をみながら早めに誘導しています。個々に合ったパットを使用し、なるべく下着の生活に戻れる方向で支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、食事メニューを工夫し、自然に排便が出来る様、繊維の多い食材を心掛け調理し、それでも出ない場合は薬等主治医・看護婦に相談し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の目安の曜日は決めています、個々の体調や要望に合わせて介助し、ゆったりと湯船に浸かって頂く時間を大切にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが乱れない様に注意し、日中でも休んでもらうようにしています。休息、入床、起床時間は利用者の希望を尊重し、支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・容量を理解し、間違えない様、翌日1日の分を夜勤者がセットし、薬の内容を確認、薬の変更や追加の場合は受診記録に記載し申し送りをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かした家事・レクの役割をお願いし、百人一首・体操・畑仕事・散歩・パズル等、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候と体調に配慮しながら散歩等していません。馴染みの方・家族・親戚の方が来苑されます。外食等出来るよう支援できたらと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身、欲しい物が無いようで、買い物に出掛ける機会が少なくなりましたが、欲しい物がある時には一緒に買い物に出掛けることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の部屋で、電話で家族と話ができるようにしています。手紙は難しいので年賀状・暑中見舞い等を塗り絵にし、家族等に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の空調・湿度・温度管理には湿度計等を置いて管理をし、快適に過ごして頂けるよう心掛けています。散歩で摘んだ草花など季節の飾ることもあります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいる方や、畳のスペースでテレビを観ていたり、お部屋で休んだり、利用者それぞれに自分の居場所を作って過ごしてもらっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時や来苑時にご家族に持って来てもらえるように声掛けをしている。以前の自室に近い状態を作れるように心掛けている。但し、消防署からの注意点もあり置けるものや貼るものは、難しい点もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、畑仕事、数字計算、体操など、一人で出来ることは職員が見守り、清潔で安全な生活空間になるよう、工夫し確保しています。		